

「世界の織りと染め」 5月22日(木)～6月1日(日)

概要

世界の織りや染めの多様さについては、多くの書籍が刊行されてきた。それでも、そうした美しい布をヴィジュアルで鑑賞できる本はそれほど多くはなく、高価で出版部数も限られている。芦屋大学図書館には、岡村吉右衛門の『世界の染物』・『世界染色工芸論考』というこのテーマの基本となる大著とともに、インド、インドネシア、ヨーロッパ古代の染織についての稀観書が収蔵されており、その奥深く美しい世界を眺めるのにすばらしい機会を提供することができます。技法的には多くの共通の基礎に立ちながら、自由な文化的変異を生み出してきた染織の世界は、きっと慣れ親しんできた布のなかにまったく新しい発見をもたらしてくれることでしょう。ご来場をお待ちしております。



(左から)※インド【糊版更紗緑地草花文『岡村吉右衛門 世界染色工芸論考 第2巻』より】

※ザイル縫い絞り ラファイアの編布にタンニンの下漬けをし、山縫い、巻縫いをして赤く染め、更に縫い絞り、鉄で媒染してある。回教徒によって伝播された技術であろう。汗と脂の匂いが強く心を打つ染め物である。18世紀?

※ペルー 根巻絞り 木綿 9～16世紀(チャンカイ文化期)

※蒙古絞り十字文 チベットからモンゴルにかけて見られる絞りで、ラマ教圏のものといえよう。厚手の毛織物を描み上げて染める。乾燥の甚しい地帯で濡々とした染味は、見る者に安堵の息をつかせる。19世紀後半～20世紀前半。

この稀観書展覧会シリーズは、芦屋大学図書館の収蔵書のなかでも特に価値がある稀観書豪華本を展示し、学内外や地域の方がたに広く鑑賞していただくために開催いたします。芦屋市民の皆さまに広く見ていただける機会を得たことを、心から嬉しく思っています。

芦屋大学 学長・芦屋大学図書館 館長 窪田 幸子



「布とは何か？」

[講演概要]

布はあまりにも身近で普通の存在であるため、私たちは普段それについて考えることはほとんどない。いきなり「布とは何？」と問いかねられると、多くの人はとまどうに違いない。糸で織られて、色を染められてつくられる布は、世界中で古い歴史と伝統のなかで多様に進化し展開してきた。布という製作物から、未来の布まで、一度しっかりと考えてみたいと思います。樹皮や毛皮しかなかった時代から、不織布の活躍する時代まで、人間と布のかかわりを見直し、そこから、ファッションや工芸やアートにまで広がる多岐にわたるテーマに新しい光を投げかけてみたいと思います。自然素材の糸から織られる布の黄昏の季節をしっかりと見きわめたいと考えています。

松井 健(東京大学名誉教授・芦屋大学客員教授)



東京大学名誉教授・芦屋大学客員教授 松井健

講師プロフィール

1949年生、京都大学理学部卒、京都大学理学研究科中退、理学博士。京都大学人文科学研究所助手、神戸学院大学教養部助教授をへて東京大学東洋文化研究所教授。2015年定年退職、2022年から金城次郎館(沖縄県南城市)館長。人類学(認識人類学、西南アジア民族誌)を専攻、退職後は美しいものを手がかりに、学術研究が扱わなかった価値や感性について考えている。



参加
無料

日時：5月22日(木) 14:00～15:30
場所：芦屋市民センター本館401室(先着90名)
お申し込み不要。直接会場にお越しください。

主催：学校法人芦屋学園 芦屋大学、芦屋市 お問い合わせ：芦屋市立公民館(0797-35-0700)